

上信越 POP トレイル 構想

■ POP とは？

===アイヌ語で沸騰する、たぎる湯という意味です。

■上信越 POP トレイル とは？

縄文（アイヌ）人にゆかりの深いこの地で、私たちはたくさんの POP の恵みを受け暮らしています。

この私たちの集落を、「やま」でつなぎ、この地の自然環境、山と温泉、地域の歴史、伝統、文化などを、「やま」を越えつつ長期に渡って巡り、上信越の旅を満喫していただくとするものです。

美しい山の稜線や集落をつなぐと最大約 230 キロ、国内最長のロングトレイルができあがります。日本の山文化の全てがあるこの地域で、世界に通用する国際的なロングトレイルを制定していこう！

これが“上信越 POP トレイル”構想です。



まえがき

本ルートの提案は、平成19年10月末に、熊川栄孀恋村長より「孀恋村周辺の各市町村行政と手と手を取り合って、世界に通用する国際的な観光魅力を満喫できる山岳ロングトレイルを制定したい。そのルート構想図を、描いてもらえないだろうか。」というご相談を受け、下谷通観光商工課長のご協力と、登山家・大島義夫さんの原案をベースにご意見を伺いながら、私木村道紘がさらに発展させ、ルート近辺の山と地域の魅力を掘り起こし、構想をまとめたものです。各地域は独自の魅力を持っており、数行という短い紹介文ではとても地域を表すことなどできません。また私自身も、まだ訪ねていない場所もあります。調査が足りておらず提案資料としては不十分で、非常に心残りではありますが、上信越高原の各市町村、及び地域（集落）が、協同で国際的な観光誘致資源をつくり上げていくという、一つの美しい構想資料として、参考にしていただければと存じます。

また、自然観察や森林散策を得意分野とするインタープリターである私が、この登山が主なプレゼンテーションをするには大島さんのご協力が不可欠であったこと、そして、カシミール3Dソフトを私にプレゼントし、使い方の相談に応じてくれた伊藤正志さんのご協力がなくてはこの提案書は完成しませんでした。

しかし伊藤さんはこの提案書を見る前に、正月早々1月3日午前2時10分、不慮の事故で急逝されるという信じられないことが起こってしまいました。悲しみに打ちひしがれながらも、6日のお通夜に間に合うようにと大至急、深夜に渡る作業でこの提案書を書き上げました。

まえがきで事故やお葬式のことを書くのは非常識なことは百も承知ですが、伊藤さんと出会い、そして別れがなければこの提案書はずいぶん違ったものになっていたことでしょう。何か深い因果を感じられずにはいられません。伊藤さんとの付き合いはわずか2年ほどでしたが、私を含めた周囲の仲間たちは、あの人懐っこい笑顔と性格、ホスピタリティ精神あふれる対応にすっかり心を許しファンになってしまっていました。人の出会いの魅力とは、こういうことなんだと、教えてくださった人でした。

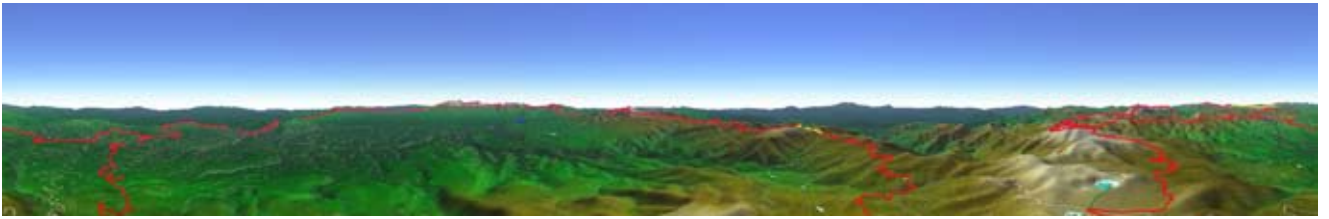
人は移動し、出会い、別れ、そして成長し強くなるのだということを、今さらながら心に叩き込んだ2008年の正月。そして、人の命とはなんともあっけない。まさかと思うような別れが来ます。だから、悔いの無いように、訪問してくれた旅人に対し、出会った人に対し、精一杯の真心をもって接したいと思います。この提案書が旅人に対しいかなるものを提供できるか？…という示唆を含めた構成内容になったのは、偶然ではなかったように思います。

伊藤さん、今まで本当にありがとうございました。この提案書を、亡き友の霊前に捧げます。

木村道紘

プロローグ (1)

県境から見た、山のうねりと原のうねり



本白根山展望所に立つ。北に目をやれば眼前の白根山から、上信越高原国立公園主峰の山々のうねりが続いている。志賀高原最高の横手山、岩菅山、烏帽子岳、白砂山の奥には苗場山も見えている。

東の草津温泉の町並みから南には広大な原野が広がり、その一番向こうで、帝王・浅間山は煙を吹いている。この原野にはかつて、古孀恋湖が水をたたえ、今よりずっと高く大きな浅間山を湖映していたという。縄文土器や石器の出土も多く、太古へ思いを馳せずにはいられない。

浅間山塊の西には、修験道の霊山であった四阿山がそびえ立つ。孤峰の四阿山は、浅間山が無ければこのエリアでは最高の山で、こちら側から見る山容は印象的。眺めて美しい、品格のある名山だ。

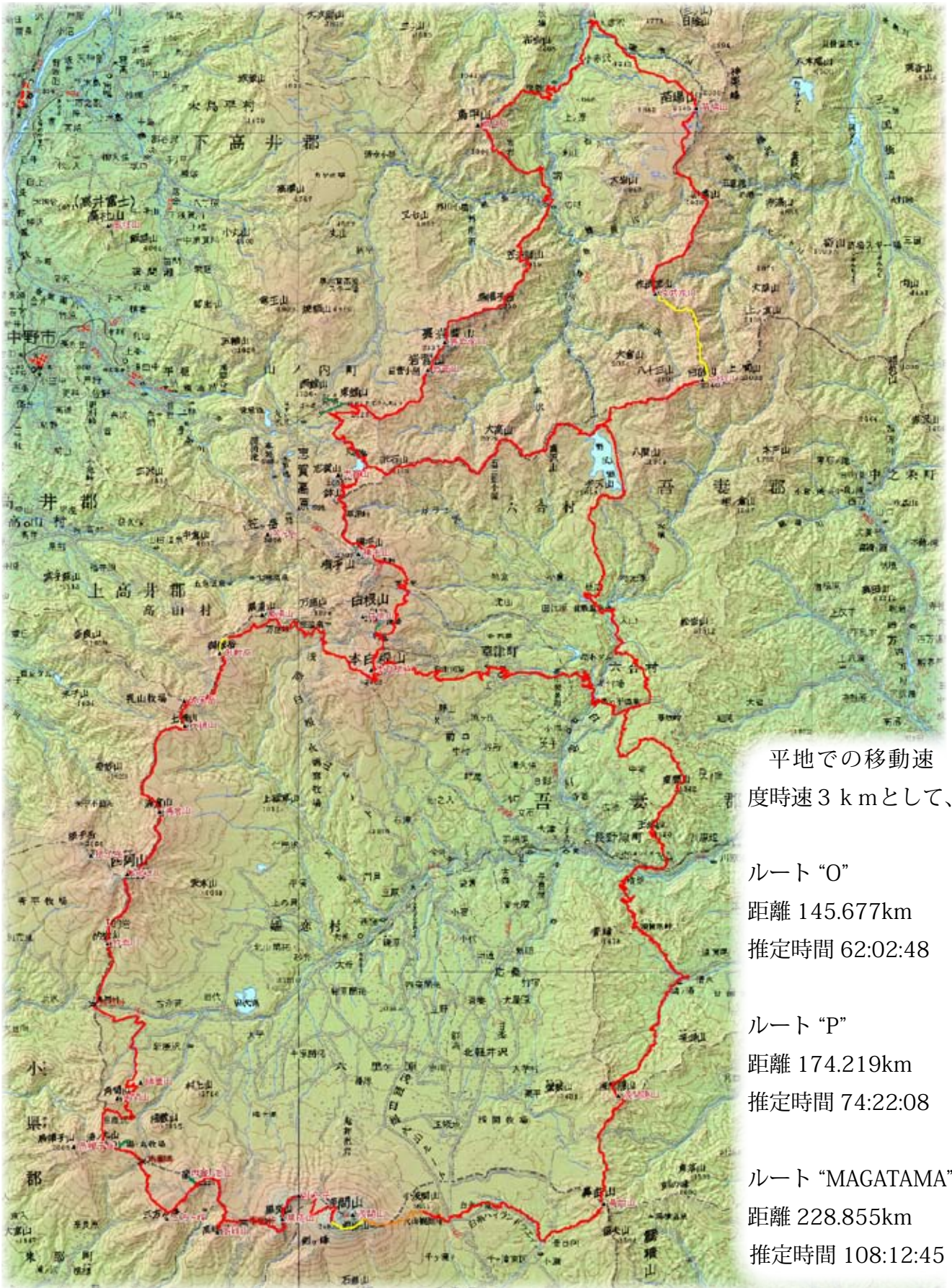
そしてその“やま”は、御飯岳や万座温泉を経て、今立っている、ここ本白根山までつながっている。

山の天気は移ろいが早い。気が付くともう、浅間山が雲に半分隠れてしまっている。見回したところをもう一度たどっていた時、ハッと思った。北の山のうねりと、南の原のうねり。この一見相反する二つの風景は、つながっていると。

足早に、本白根山探勝歩道を降り進む。いつもなら必ず行う、以前イヌワシを見たポイントでのチェックも、今日はまったく忘れてしまっていた。胸の高まりが激しい。いったい何が浮かび上がってくるのだろうか。このエリアの魅力を思えば思うほど、興奮を抑え切れなかった。



外回りをルート“MAGATAMA”、本白根山と浅間山にをはさんだ円形のコースをルート“O”、ルート“O”と野反湖、大沼池を含めたコースをルート“P”としている。登山道として開いているコースを**赤色**で、開いていないルートを**黄色**で、現在通行止めのルートを**オレンジ色**で示した。



旅人を“やま”から迎え、“やま”に送り出す。

地域が調和しつながらることで生まれるロングトレイル、ルート“MAGATAMA”。

このルートでは訪れてくる旅人を“やま”から迎え、“やま”に送り出す。無事に送り出してくれたこれまでの集落に敬意を表し、旅人をお迎えしたいと思う。

厳しく険しい“やま”を越えてまで訪れたからこそ、その集落の持つ地域と人の風がやさしくうれしい。そして私たちは、そうまでして訪れてくれたからこそ、当地ならではの味わえるような、おもてなしをしたいと思う。地域を存分に感じ味わうことが、旅の本来の醍醐味だからだ。

TVでよくある、海外の未開の奥地で、原住民集落に滞在するドキュメンタリー番組。お別れの際、両者は胸いっぱいになり涙し抱擁しあう。視聴者も思わず目が潤んでしまうひとコマだ。人は本来そうしてまだ見ぬ世界を訪問し、交流していたのだということを思い知らされる。

“やま”を越えて訪ねて来てくれた旅人を、心からお迎えしたい。そしてこれまでの集落がしたのと同じように、お腹いっぱいの食事と、山の疲れを癒す湯と寝床でもてなしたい。ゆっくり過ごして、体力を取り戻して、元気になった体で、再び“やま”を越え、次の集落へと旅立ってもらうために。



上信越POPTレイル(通称“MAGATAMA”)の主峰一覧

山名	よみ	標高	日本百	二百	三百	花百	新花百	群馬百	信州百	所在地	紹介されている花
草津白根山	くさつしらね	2171	○					○		嬭恋村、草津町	
御飯岳	おめしだけ	2160						○	○	嬭恋村、高山村	
破風岳	はふうだけ	1999							○	嬭恋村、高山村、須坂市	
浦倉山	うらくらやま	2091							○	嬭恋村、須坂市	
四阿山	あずまや	2354	○					○	○	嬭恋村、上田市、須坂市	
湯ノ丸山	ゆのまるやま	2101						○	○	嬭恋村、上田市、東御市	
籠ノ登山	かごのとやま	2227						○		嬭恋村、東御市	
高峰山	たかみねやま	2106				○			○	小諸市	コウリンカ
黒斑山	くろふ	2414				○		○	○	嬭恋村、小諸市	ヒメシヤジン
蛇骨岳	じゃこつだけ	2366						○		嬭恋村、小諸市	
浅間山	あさま	2542	○			○		○	○	嬭恋村、小諸市、御代田町、軽井沢町	ムラサキ
浅間高原	あさまこうげん						○			嬭恋村、小諸市、御代田町、軽井沢町、上田市、東御市、倉淵村(高崎市)、長野原町	ハクサンイチゲ、ヒメシヤジン
鼻曲山	はなまがりやま	1655						○		軽井沢町、倉淵村(高崎市)、長野原町	
浅間隠山	あさまかくしやま	1757		○				○		長野原町、吾妻町、倉淵村(高崎市)	
王城山	おうじょうさん	1123						○		長野原町	
高間山	たかまやま	1342						○		長野原町、吾妻町、六合村	
八間山	はちけんざん	1935						○		六合村	
白砂山	しらすなやま	2140		○						六合村、栄村、湯沢町	
佐武流山	さぶるやま	2191		○						栄村、湯沢町	
苗場山	なえば	2145	○			○			○	新潟・長野	ツルコケモモ
鳥甲山	とりかぶとやま	2038		○					○	栄村	
岩菅山	いわすげやま	2295		○					○	山ノ内町	
赤石山	あかしやま	2109							○	山ノ内町、六合村	
横手山	よこてやま	2305			○			○		六合村、山ノ内町	
志賀高原	しがこうげん					○	○			山ノ内町、六合村	イブキジャコウソウ

やまを越えるにはエネルギーが必要だ。ところで“MAGATAMA”は、たくさんの“POP”で護られていた。

“やま”を越えてきた旅人を癒す個性的な集落の数々。POPとは、アイヌ語で沸騰する、たぎる湯という意味。そして、POPとは、population（人口）の略。ルート“MAGATAMA”にはPOPから名前が付いた発哺温泉のほか、草津温泉や万座温泉などの国内有数の温泉郷、高原のホテル群、ひなびた一軒宿、家庭的なペンション、さわやかなキャンプ場…たくさんのPOPで囲まれている。“やま”を越えてきた旅人は、人間的なものが恋しいことだろう。そして“旅”人たちは、それぞれの集落が持つ独自の風土とぬくもり、“他火”に包まれながら、癒され回復することだろう。



ルート近辺の主な集落、温泉一覧

■ルート“0”

ルートからの徒歩時間(分)	集落名	温泉	宿泊施設	特徴	所在地
0	大赤沢(秋山郷)			本ルート最北地。苗場山山頂を通過するためにも必要。輪切りテーブル発祥の地・山源木工のお膝元。展示場の作品の数々は、匠の技の見事さに尽きる。	津南町
0	小赤沢(秋山郷)	小赤沢温泉	秋山館など	苗場山登山口でもあり、小赤沢温泉は登山者の荷物置き場があるなど、対応に慣れている。珍しい茶褐色の湯と、配管から断続的に噴出する源泉が面白い。総合センターに立ち寄るのも良い。熊肉を食べさせるラーメン屋や宿なども、マタギの文化	栄村
0	屋敷(秋山郷)	屋敷温泉	秀清館など	平家の隠し湯、秋山郷民俗資料館、絶壁岩「布岩」	栄村
0	切明(秋山郷)	切明温泉	雄川閣など	河原に湯の湧く秘湯。自分で川底を掘って作る露天風呂	栄村、山ノ内町
10-40	発哺(志賀高原)	発哺温泉	発哺温泉、一ノ瀬・高天原ホテル群など	語源はアイヌ語で沸騰する、たぎる湯という意味のPOPから来ている。	山ノ内町
60-120	志賀高原	志賀山、木戸池、石の湯、熊の湯など	蓮池・木戸池・熊の湯ホテル群など	設備の整った大型ホテル群、湖沼群、大沼池の大蛇伝説、四十八池、石の湯ゲンジボタル	山ノ内町
0	横手山、渋峠(志賀高原)		横手山山頂ヒュッテ、渋峠ホテル、渋峠ロッジ	日本一標高の高いパン屋さん、県境の宿、国道最高地点、駐車場広し	山ノ内町、六合村
0	芳ヶ平		芳ヶ平ヒュッテ	昔から草津と信州をつなぐ街道の中継地	六合村
0-10	万座温泉	万座温泉	万座温泉のホテル・旅館群	縄文-弥生式土器の出土、修験者の書いた礫石経の出土、空吹き、豊富な湯量、熊四郎山大蛇伝説	嬬恋村
60-100	信州高山温泉郷、松川溪谷	七味温泉、五色温泉、松川溪谷温泉など	紅葉館、五色温泉など	紅葉の露天風呂全国人気投票一位。松川溪谷は紅葉百選、雷滝の爆音	高山村
30-140	バラギ高原	バラギ温泉	パルコール嬬恋、バラギ高原のペンション	平成9年、バラギ温泉湖畔の湯誕生、バラギ湖でのんびり、広大なキャベツ畑、星空観察に最適	嬬恋村
150	四阿高原	あずまや温泉	あずまや高原ホテル	設備の整った単独ホテル、絶景露天風呂	上田市
40	渋沢	渋沢温泉	渋沢温泉	そばの味に定評あり	上田市
150	新鹿沢	新鹿沢温泉		鹿沢館の建物が見事、1932年鹿沢温泉の大火と再建の物語	嬬恋村
0-60	旧鹿沢	鹿沢温泉	紅葉館、休暇村鹿沢高原など	千年以上の歴史、鹿の伝説、百体観音、雪山賛歌発祥の地	嬬恋村
0	湯の丸高原		湯の丸高原の各種宿泊施設	鹿沢温泉湯治への道、国指定天然記念物レンゲツツジ群落、駐車場広し	東御市、嬬恋村
180	奈良原	奈良原温泉	あさま苑	大正11年創業の一軒宿	東御市

0	高峰温泉	高峰温泉	高峰温泉	ロビーの暖炉に天然ガスの火がともるなど、内部は山小屋風のおしゃれな建物	小諸市
0-10	高峰高原	一部あり	高峰高原ホテル、チドリホテル	雲上のロケーション、広い駐車場、浅間山麓国際自然学校	小諸市
140	天狗温泉	天狗温泉	浅間山荘	赤褐色の鉄鉱泉湯	小諸市
100-150	浅間牧場	浅間高原温泉	北軽井沢ハイランドリゾートホテル、北軽井沢ヒルズホテル	軽井沢の奥座敷、鬼押し園、浅間園	嬬恋村、長野原町
160	千ヶ滝(中軽井沢)	千ヶ滝温泉	千ヶ滝温泉ホテル	収容力大	軽井沢町
150	星野(中軽井沢)	星野温泉	星野リゾート、塩壺温泉	草津の戻し湯、仕上げ湯。避暑地としての歴史あり、野鳥観察のメッカ、野鳥の森	軽井沢町
30	小瀬	小瀬温泉	小瀬温泉ホテル、軽井沢パークホテル	旧草軽電鉄小瀬温泉駅、明治9年開業	軽井沢町
120	霧積温泉	霧積温泉	金湯館、きりづみ館	明治憲法草案が作成されるなど歴史あり。明治43年に起こった山津波で40数件あった建物が2つになった。	安中市
180	北軽井沢	北軽井沢温泉	北軽井沢の宿泊施設群	浅間大滝、炎の祭り、王領地の森	長野原町
120	川浦	はまゆう山荘	はまゆう山荘	建築業協会賞を受賞した、中世ヨーロッパを思わせる石造りの外観の建物は、施設も充実	高崎市(倉渕)
0	須賀尾(浅間隠温泉郷)	薬師温泉、鳩ノ湯温泉、温川温泉	旅籠、三鳩樓、白雲荘	須賀尾の棚田、里山風景、江戸から草津や善光寺参りに行く途中の旅籠、目の湯、かやぶきの郷	東吾妻町
60	川原湯	川原湯温泉	川原湯温泉の各宿	ダムに沈む温泉、頼朝の温泉と湯かけ祭り、吾妻溪谷、川原湯岩脈、丸岩、神楽	長野原町
0	林地区(王城山)			だんご相撲、神楽、王城山神社の神杉、カタクリ群生	長野原町
0	鍛冶屋敷(赤岩)			国指定重要伝統的建造物群保存地区、現存する養蚕農家群、木曾義仲の伝説	六合村
0-10	湯の平、小雨(六合)	湯平温泉、応徳温泉	湯平温泉、お宿花まめ	白砂川を見下ろす秘湯、つり橋、道の駅六合、古民家移築、道の駅	六合村
0	草津	草津温泉、西の河原露天風呂	草津の宿泊施設群	全国人気投票一位の温泉郷、湯治の歴史、温泉街、湯畑、湯もみショー	草津町

■ルート“0”

ルートからの徒歩時間(分)	集落名	温泉	宿泊施設	特徴	所在地
0	花敷	花敷温泉、尻焼温泉	関晴館、花敷の湯	源頼朝の伝説、川底からあふれる広い湯船	六合村
0	野反湖(キャンプ場)		野反湖キャンプ場、ロッジ	BE-PALの「ほんとうに気持ちいいキャンプ場」第1位、ダム湖百選、高山植物の宝庫	六合村

ルート“MAGATAMA”は不思議なところ。いつ行っても外来人の心を引きつける何かがある。日本の山暮らしとはかくも美しいのか。

ここでは、ルート MAGATAMA を最北地から左まわり（時計と反対まわり）にたどり、その魅力を簡略的に紹介していく。

日本百名山・苗場山の山麓に広がる「日本一河岸段丘」の町、新潟県津南町。縄文時代には「縄文銀座」と呼ばれるほど多くの縄文集落があり、中でも正面ヶ原D遺跡は、27,000年前に降下した火山灰の下から出土した石器群で、新潟県で最も古い人類の歴史を持つ。太古のロマンあふれるこの地が、ルート“MAGATAMA”の尾先となる。



その南の中津溪谷には、秘境ゆえに縄文伝統の山棲み民俗が近代まで残されていた秋山郷（長野県栄村）が広がる。古代の布・アンギンや、国指定有形民俗資料に登録された山村生活道具の数々、木地師伝承の木工芸技術など、日本の秘境百選の魅力を満喫する。



魚野川を挟んで東側に女性的な苗場山、西には険しく急峻な鳥甲山がそびえ立つ。ここでは都合上、“MAGATAMA”の腹にあたる、「鳥甲山」からたどり紹介していく。標高 2037 メートル、日本二百名山に名を連ね、第2の谷川岳とも言われる。夏でも雪が残り、岩肌も荒々しく険しく人を寄せ付けけないような荘厳さに満ちている。



切明温泉まで一気に降り、また一気に上る。笠法師山、烏帽子岳までの長い上り道を越えると、なだらかな尾根とすばらしい眺望が歓迎してくれる。いよいよ上信越高原国立公園の核心部ともいえる志賀高原の連山をたどることになる。名峰・岩菅山（二百名山）から寺子屋山を越えたら、POPトレイルの名の原点ともなった発哺温泉や志賀高原の集落が、ここまでの尾根越えの疲れを癒してくれるだろう。



横手山山頂ヒュッテでは日本一高所にあるパン屋さんのパンを食べるのがこのルートでの楽しみ方。



かつての草津道をたどり広々とした芳ヶ平湿原に下ると、白い山肌の草津白根山が目前に迫り、ぷうんと硫黄の匂いが漂ってくる。現在でも高温の蒸気を噴き上げ、継続中の火山活動の様子を見ることができる。このルートで訪問者数最大の火口湖・湯釜を覗いてもいいだろう。



かつての火口湖・空釜はみごとなコロシアム形状。ここで良きガイドが同伴できたなら、人間力が作った風景・日本一のコマクサ大群落の物語に思いを馳せることになるだろう。



“MAGATAMA”の顎の部分にあたるのは、縄文人や修験者も利用したといわれる霊験あらたかな万座温泉。ルートの疲れを癒すのには最適の温泉だ。また「MANZA」とは“神々が祭りごとを行う聖なる地”と伝えられている。勾玉の効力は、顎の部分で悪を威嚇し、尾で追い払うという。万座の白濁の湯で威嚇し、小赤沢温泉の赤湯で追い払うのだろうか。



ここからはしばらく県道牧干俣線を歩く。途中に全国で唯一 2,007 mの三角点がある山、黒湯山がある。万座周辺の川にはどうしても硫黄が含まれるのに、ぐんま百名山「御飯山」から湧き出る「ジロー清水」はとてもピュアな水。わざわざ遠くからこの透明な水を汲みに来る人もいる。寄り道しても往復で1時間。



御飯岳を越えた毛無峠付近では、標高 1,823 mなのに 2,500 m級の高山でもあるかのような矮性低木に覆われる。そして一年中風の吹き止まぬ山・破風岳山頂の絶壁が驚嘆することだろう。しかし、これで驚いてはいけい。なぜならあなたは数日後、この風景よりさらに足がすくむであろう絶壁が続く道を経験することになるからだ。



ここから修験道の霊山であった日本百名山・四阿山 (2,354 m) を目指す。孤峰の四阿山は浅間山が無ければ上信最高の山で、壮大な山容と山頂からの展望がすばらしい。国指定の天然記念物「的岩」の存在感も見逃せない。



鳥居峠からは、しばらく道路を歩き、いよいよ浅間山塊に入ってゆく。勘の良い方なら、植生の様子が変わってきたのが解るかも知れない。日本海の影響を受けていた脊梁山脈を越えると、湿っていた空気は乾燥し、ここでは違う風が吹いている。



鍋蓋山では“MAGATAMA”の目、田代湖が最も近くに見える。鍋蓋山、角間山、湯の丸山はさほど難しいところもなく、湯の丸山の丸みのある山容が特徴的。レンゲツツジ 60 万株の大群落は見事。



池の平湿原は整備の整った高層湿原で、籠ノ登山、高峰山（花の百名山）、と、多くの花々に恵まれたエリア。登山経験のない人でも十分に楽しめる。

そしていよいよ日本を代表する火山、浅間山に近づく。群馬県標高第三位の山、黒斑山 (2404 m) を目指してトーミの頭に立てば、浅間山近景の迫力、露岩の重なる狭いピーク・緑が美しい眼下の湯ノ平など、思わず地球のスケールを感じて



しまう。

黒斑山・蛇骨岳・仙人岳と続く稜線は浅間山の第一火口壁。落差 300 m、息を呑むような切り立った崖の稜線を歩く。気を緩められないがこれから挑戦しようとする浅間山がいかなるものか心の準備が整ってくる。

Jバンドを降りて湯ノ平までの道では、火山噴火のガレ地から森林に遷移していく様子を見ることができる。真新しいクレーターは 2004 年浅間山噴火の火山弾によるもの。

荒涼としたガレ地を登り、いよいよ浅間帝王の肩である前掛山に立つ。本ルート最高地点からの絶景を堪能してほしい。かつてはこの上の釜山火口縁を歩けたが、現在は立ち入れない。ぷんと硫黄の匂いを放つ釜山を左手に眺めながら前掛山火口壁の稜線をたどり、もう一方の肩、東前掛山で浅間帝王ともしばしの別れ。帝王の首から上といわれる小浅間山に降りていく。

峰の茶屋からはゆるやかな信濃路自然歩道が続く。景勝地、白糸の滝では浅間山の伏流水が岩盤から横一列に染み出し、降り注ぐ水と苔・岩のコラボレーションがなんとも言えず美しい。これまでの荒々しい浅間山登山の疲れが癒されるひととき。

鼻がひん曲がったような面白い形をした鼻曲山では、晴れていれば妙義山の奇岩群を眺められる。稜線伝いに氷妻山、二度上峠、浅間隠山へと進む。

浅間隠山はこの稜線では最も高く、東側から見ると浅間山が隠れてしまうのでこの名が付いた。360 度のパノラマの定評はもちろん。高崎市街の夜景とそこから上る朝日に出会うことができればこの上ない。

浅間隠温泉郷は草津の仕上げ湯として江戸時代からの歴史がある。かやぶきの郷は古民家などを移築し最近できたテーマパークだが、伝統行事や昔体験をすることができ、外国人には魅力的なところ。

この辺りからしばらくは車道と遊歩道を交互に進んでいく。王城山は日本武尊が休息をとった場所といわれる。麓の王城山神社で旅の安全を祈願したり、この集落の伝統行事のだんご相撲や神楽などに触れたい。王城山神社の神杉、カタクリ群生も見事。

六合村・赤岩地区は日本の典型的な山村地域の家並みや景観を保っていて美しい。幕末や明治時代に建てられた養蚕農家が現存し、蔵や小屋、石垣や樹木から構成される敷地、通り沿いの景観、お宮や御堂の配置、周囲の農地や森林環境など、江戸



時代からの環境が残る。国指定重要伝統的建造物群保存地区。

道の駅六合では、木曾義仲の伝説の話が聞けるかも知れない。近くの応徳温泉では休憩室もある。そして日本を代表する温泉リゾート地・草津へ。町中に魅力あふれる草津だが、ここでは、湧出する豊富な温泉が滝となっている湯畑と、そこから続く温泉街、西の河原露天風呂を正式なルートにしたい。

花敷では川底から尻が焼けるほど熱い温泉が湧き出る尻焼温泉で、旅の仲間と交流したい。地元の人が入浴していたら、ぜひ昔話でも聞かせてほしいところだ。

山を越えて、野反湖へ。野反峠休憩舎では、地元のナチュラリスト・中村一雄さんとの出会いがあるだろう。近辺の自然状況に詳しく、登山についてさまざまなアドバイスをしてくれる。

湖の反対側の野反湖キャンプ場が、このルートの最後の公な宿泊サイトとなる。このあとでは、ルート“P”で荒廃した五三郎小屋があるだけ。“MAGATAMA”にはいい水場もない。十分に鋭気を養い、水を準備し、回復しておきたい。

群馬、長野、新潟の三県にまたがる白砂山。これまでのルートの稜線からよく見えていた独特な山容も、登山口である野反湖付近に来ると手前の山にさえぎられて見えなくなる。前衛峰・堂岩山の急登を登って初めて、均整のとれた美しい姿が現れ感動する。二百名山でありながら交通、アプローチの悪さから遥かな山だ。MAGATAMA とセットならチャレンジできる。

白砂山から佐武流山までは、開いていないルート。勇敢にもこのルートを攻める。日本二百名山・佐武流山は 2,192 m、浅間山を出てから最も高い山。越後方面は工作物が一切ない 180 度のパノラマが広がる。

最後の日本百名山・苗場山は、日本海側の気象の影響が強く出る。どっしりとした量感、ルート MAGATAMA の最後を飾るにふさわしい。山頂にある 600ヘクタールにおよぶ大湿原には、大小無数の池塘が水をたたえ、さまざまな高山植物たちが長かったこれまでの道のりを讃えてくれる。木道沿いに咲く、「可憐」の花言葉を持つチングルマのはっきりとしたコントラストが目まぶしい。2,000 mの稜線を綴り歩いたルート MAGATAMA、最後に 1,443 mの落差を一日かけてじっくり降りる。一日かかるのがいい。秋山郷の住人たちとの再会も待ち遠しいが、これまでのルートの出会いを回想する時間も必要だ。そして、いく山もむこうの集落で聞いたあの話を、ひと月前に世話になったあの大将に、出会ったあの囲炉裏で、大将の好きな酒でも交わしながら、聞かせてやりたいと思う。



あとがき

北村昌美著「森林と日本人―森の心に迫る」という本に、このような一節があります。

「人生 50 年と昔は言ったらしいですが、今は人生 80 年の時代です。これを生涯生活時間に換算すると 70 万 800 時間になります。このうち労働時間というのは、わずか 1 割から 2 割にすぎません。そして自由時間というのは、なんと 3 割もあるのです。こうなると人生の中で 3 割もある自由時間のことを、とても『余暇』、つまり『余った暇』とは言えません。むしろ余暇の方を生活の中心にすえて生活文化の再構成を図るべきです。充実した人生が送れるかどうかは、この生活文化再編の成否にかかっています。もしそのことに気づかずにかうかかと日を送れば、人生そのものを無為に過ごしてしまうことになります。」

モーレツ社員が過労で体を壊し、人生の歩み方を変えてからもう 5 年以上経過しました。その間に、インタープリターと名乗ることになってしまい、まあそれも悪くはないので、今日まで自然案内活動を推進しています。しかし実際に、人様を野山にお連れしてみても、ここまで日本人の自然離れが進んでいるとは思っていませんでした。「アメンボって水から生まれるんでしょ？」ならまだしも、「なんでこんなに虫がいるの？ありえない！」とキレる中学生、登山道を歩きながら山ほどの山菜やきのこ、場合によっては山野草をも採取し、気が変わったからと言って結局ほとんど燃えるごみで出してしまうおばちゃん達…。おいおい、せめて山に返せよ。

はたまた、首都圏で行っている自然案内人インストラクター育成講座に参加すると、実際にフィールドで案内経験のない講師が、「立ちションする人は自然案内人として認めない。最悪の行為だ」と指導する光景を目にします。彼には土が喜んでいる声も聞こえないのでしょうか。だって山で育っていませんから。コンクリートジャングル生まれ育ちの人ですから。そりゃあ、自浄能力のないアスファルトが地球の上だと思っている人ですもの。土の気持ちなんか、解かる筈ありません。

江戸時代は、250 年余りの間、自然の利子だけで 3000 万人が生活し、自然の元金にはほとんど手をつけずに社会を維持していて、まさに資源循環社会、エコロジカルな社会だったと唱える人がいます。しかし、実際には、今の暮らしよりはずっと辛く貧しい生活だったでしょうし、教育や人権、医療も行き届いていたとは思えません。それでも、資源が枯渇するまであと 100 年も無いという根底意識がありながら、孫のことより自分の今の快楽を追求し、ますます地球を悪く、汚く、臭くしてしまっている現代よりは、遥かに美しい時代だったということは、もうかなり多くの人が気づいています。ニートの若者を軽蔑する前に、大人達は、ここまで汚く、臭く、夢がない日本にしてしまったことを海よりも深く反省してほしいものです。もちろん、私もその反省しなくてはならない悪たれの一人ですが。

では、どうしたらその信頼と、日本の“美”を回復できるのでしょうか？私は、都会ではもう難しいけれども、山にはチャンスがあると思っています。山にはまだ自然資源も、暮らしの“わざ”も格好良さも残っているからです。山村の古民家、伝統行事や食文化・・・、訪問する都会の方々には老いも若きも、“トレンドィ”とか言って注目し求めているではありませんか！そして、もう一つ大事なことは、山村で育った人た

ちは幼少時から暮らしの中で土の匂い、森の匂いをあたりまえに経験し、それが体の中に浸み込んでいます。深層心理の奥深くで、人は、山や森と無縁となっては生きていくことができないことを知っています。だから、山村育ちの方と対面すると、その背骨から言わずとも山々の緑や田園風景を感じることができますが、都会生まれ育ちの方と対面してもそのような気配は感じられません。これが、私にとってものすごく恐ろしいことです。“やま”の護りを完全に失ってしまっているのです。

山で暮らす人々は、山の恐ろしさを良く知っています。自然の力には絶対に勝てないと身をもって解かっています。だから、無理はしないし、自分と山との力関係、位置関係の範囲内で暮らす術を心得ています。だから、山村の人たちの暮らしぶりは風景に溶け込んでいて美しいのではないのでしょうか。知っているところしか山にも入りませんから、遭難することはありません。同じことばかりやっていますから“わざ”にはますます磨きがかかります。だから、職人の仕事っぷりは格好良いのです。

最後に、アフリカで出現した私たちの祖先となる原始人は、わずか数万年で海越え山越え世界中に広がりました。ロシア極東からアラスカを渡った時、その集団は10数人のパーティーにまで減ってしまっていたといえます。森で生まれ育ち、世界に向かって歩き続けてきた人類。生命は、どんな壁が立ちはだかっても、その向こうにある新しい空間に挑戦し広がっていく、不思議な力を秘めています。山を越えてみたいというのは、人間の根本的な欲求の一つであり、危険でないように整備されれば、挑戦しようとする人は、決して少なくないことでしょう。

集落と集落を“やま”で結ぶロングトレイル。このルートの提案が、この地域の山村集落の美しさの見直しにつながり、そして少しでも都会の方々が人生の『余暇』時間を、このルートを活用して野山に山村に触れ合い親しみ、自然に、“やま”に回帰することにつながれば、望外の喜びとするところです。

万座温泉日進館インタープリター、孺恋村インタープリター会事務局長 木村道紘

■参考資料、引用文献

森林と日本人（北村昌美） / 日本百名山（深田久弥） / 山と高原地図 16,17,19（旺文社）
ナショナル・ジオ・グラフィック日本版 / 日本アイヌ地名考（山本直文）
カシミール 3D / 写真でみる奥上州吾妻の魅力（吾妻観光連盟）

■参考、引用 WEB サイト一覧

- ・八ヶ岳中央高原ペンション RADISH-GARDEN <http://www.p-rg.com/mt.html>
- ・登山 & 日本百名山 & 山岳巡礼 <http://www.joy.hi-ho.ne.jp/h-nebashi/shinshu100.htm>
- ・群馬県 <http://www.pref.gunma.jp/d/04/100meizan/100yama.htm>
- ・津南町 <http://www.town.tsunan.niigata.jp/>
- ・栄村 <http://www.vill.sakae.nagano.jp/>
- ・秋山郷 山源木工 <http://www.otochi.com/>
- ・岩菅山 <http://homepage3.nifty.com/harikonotora/iwasugeyama.htm>
- ・横手山山頂ヒュッテ <http://www.yokoteyama.com/index.html>
- ・浅間隠山 <http://www.sky.sannet.ne.jp/halle/sannrei/asamak/asamak2.htm>
- ・薬師温泉 旅籠 <http://www.yakushi-hatago.co.jp/>
- ・長野原町 <http://www.town.naganohara.gunma.jp/>
- ・六合村 <http://www.vill.kuni.gunma.jp/>
- ・草津 西の河原露天風呂ホームページ <http://www.kusatsu.ne.jp/otaki/roten/index.htm>
- ・白砂山 <http://homepage3.nifty.com/harikonotora/sirasunayama.htm>
- ・日本百名山をめざして（佐武流山） <http://www5d.biglobe.ne.jp/~isom/index.html>
- ・夢追い人（鳥甲山） <http://www5a.biglobe.ne.jp/~hitoyo/index.htm>